

第24期日本学術会議化学委員会高分子化学分科会（第4回）議事要旨

日時：令和元年5月31日（金）9:15～10:45

場所：大阪府立国際会議場 1006 会議室

（以下敬称略）

出席者：（第三部会員）片岡一則、（連携会員）伊藤耕三、上垣外正己、栗原和枝、
小林定之、澤本光男、高原淳、原田明、三浦佳子、吉江尚子
（オブザーバー）加藤隆史高分子学会会長

欠席者：（第三部会員）君塚信夫、（連携会員）岸村顕広、佐々木園、中條善樹、
藤田照典、八島栄次

議題：

1. 前回議事要旨案の確認と承認

前回議事要旨案の確認を行い承認した。

2. 海洋プラスチックに関する澤本先生の講演とディスカッション

澤本委員から「微小プラスチック（Microplastics）」に関して、海外の学会、化学企業、国際連合の部会などが発行する国際的な雑誌や、国内の新聞やテレビなどメディアによる報道から得た情報を、とくに現状、影響、対策の観点から、講演を頂いた。

講演終了後、まず、マイクロプラスチックとして問題になっている高分子は何であるのか、タイヤのゴムなども含めて意見交換を行った。高分子分科会或いは高分子学会として提言、報告、メッセージなどを出した方が良いと思われるとの意見があり、問題点を整理した上で、うまくバランスをもったわかりやすい内容で作成することが重要であることが認識された。とくに、マクロプラスチックとマイクロプラスチックの観点からは、社会問題であり政策的に取り組むべき課題と、まだ安全性が明確になっていない研究課題とを分けて取り組んでいく必要があることが指摘された。分解性高分子に関しては、分解生成物の安全性にも留意して進める必要があるとの意見があった。また、廃プラスチックをエネルギー源として利用する検討も、燃焼工学や鉄鋼業など、異分野・異業種と連携を進めながら取り組む必要があると提案された。今後、岸村委員が若手アカデミーとして10月の筑波会議および11月のWorld Science Forum(ブタペスト)でSDGs関連のセッションを実施し、その中で海洋プラスチックを取り上げるなど、国際会議においてもマイクロプラスチックに関する議論が行われる予定であるので、情報交換を行

いながら対策を練る必要があることが指摘された。微小プラスチックに関して、何が起
こっており、何が問題であり、どう解決するかをしっかりと解析しながら進める必要があ
ることが総意として認識された。

3. その他

次回の委員会開催に関して経費の支援は難しいと予想される。